



「僕らの園の小惑星が誕生したよ!」。宇宙教育に取り組む松山認定こども園星岡(松山市星岡2丁目)の名前が小惑星に付けられた。国際天文学連合が2022

まつやまにんてい えんほしおか 松山認定こども園星岡

年10月に命名を発表。小惑星「Hoshioka」は、地球から約2億*離れた宇宙で子どもたちの夢とともに輝いている。

夢と喜び 宇宙で輝く

「Hoshioka」

ねんがん えんめい しょうわくせいたんしょう 念願 園名の小惑星誕生



⑤小惑星「Hoshioka」の命名を喜び園児ら
⑥小惑星「Hoshioka」の命名証(国際天文学連合提供)

2022年11月29日午後、松山市星岡2丁目

宇宙に興味を持ってもらおうと、園は14年、年長児を対象に宇宙探検隊を結成。NPO法人東亜天文学会愛媛支部の協力のもと、天体観望会や宇宙航空研究開発機構(JAXA)との連携授業などを行っている。米航空宇宙局(NASA)の宇宙服のレプリカを着て活動もする。

「Hoshioka」は火星と木星の間にあり、直径は推定約6*。1993年に北海道北見市でアマチュア天文家の円館金さんと渡辺和郎さんが発見していた。

子どもたちの星への関心が高まるにつれ、西宮京子園



長(72)は「小惑星に園名を付けてもらいたい」と熱望した。園児による宇宙教育は全国的に珍しく、東亜天文学会の竹尾昌愛媛支部長(76)が同学会の山田義弘理事(76)に小惑星の命名について相談。命名権を持つ発見者2人も同意員だったことから、山田理事長が推薦すると渡辺さんらは「命名権を園に提供します」と快諾したという。

2022年9月に山田理事長が申請し、国際天文学連合の審査を経て10月24日に命名が決定した。山田理事長は「卒園児から宇宙や天文関係の人材が出てほしい」と期待した。同園の宇宙教育の初期から携わっている竹尾支部長は「小惑星」と園名の「星」岡。命名は「重」につれたいと話した。地域の人々も町名にちなんだ小惑星の誕生を喜んでいる。

西宮園長は「子どもたちが星や宇宙について一生懸命学んできたおかげ。卒園児らも含め、喜びを分かち合いたい」とし「いつか子どもたちに宇宙飛行士の話を直接聞かせたい」とさらなる夢を語った。

将来の夢が宇宙飛行士という玉井銀次ちゃん(6)は「Hoshiokaがどんな星なのか見てみたい」と声を弾ませていた。園によるとHoshiokaは23年2月20日ごろ、地球に最も接近するといふ。関係者が撮影に挑む予定だ。(野田真子)